黄体形成ホルモン(LH)											
LH											
LH 生化   検査オーダー											
患者	同意に関する要素	<b></b> 求事項	特記事項なし								
オーダリング手順 1 電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→											
		2									
3											
4											
5											
検査	に影響する臨床性	青報	特記事項なし								
検査受付時間			8:15~16:00								
検体採取・搬送・保存											
患者の事前準備事項			特記事項なし								
検体採取の特別なタイミング			負荷試験時や日内変動採血指示などの指示がある場合、指示通り								
検体の種類 採込			取管名	内容物	採	取量	単位				
1	全血	10 青		分離剤	8	n	nL				
2	-	-		-	-	-					
3	-	-		-	-	-					
4	-	-		-	-	-					
5	-	-		-	-	-					
6	-	-		-	-						
7	-	-		-	-	-					
8	-	-	1	-	-	-					
検体	搬送条件		室温								
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体								
			2)バーコードラベルの貼られていない検体								
			3)固形物								
			4)粘性のある検体								
保管	検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)								
検査結果·報告											

1 / 2 生化 313

検査室の所在地			病院棟 3 階 中央検査部							
測定時間			当日中~翌日							
生物学的基準範囲			別紙参照							
臨床判断値			設定なし							
基準値							mIU/mL			
共通低値	共通高値	į	男性低値	男性高値	女	性低值	女性高値			
設定なし	設定なし		設定なし	設定なし	彭	设定なし	設定なし			
パニック値	高値	設定なし								
	低値	設定なし								
生理的変動要因		特記事項なし								
臨床的意義			黄体形成ホルモン(LH)は FSH とともに下垂体より分泌されるゴナドトロピンである。							
		卵巣や糒巣などの性腺を刺激して性腺機能を維持する働きがあり、LH-RH による刺激と								
		性ステロイドホルモンによるフィードバックによりコントロールされている.								
		また、下垂体自体は視床下部や性腺などの他の分泌臓器とネットワークを組んで機能して								
			いるため、LH 測定はその把握にも役立つ。							
			三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第4版221							

2 / 2 生化 313